

【将来像・教育目標】・・・「**学生も教職員も一人一人がきらりと輝く大学に！ ～地域でブランド力をもつ短期大学をめざして～**」

最重点目標 (KPI)	具体的目標 (数値化)	ロードマップ(戦略: 何を・いつまでに・どのように)				アクションプラン		
		2018年度	検証	2019年度	検証	2020年度	検証	考え方・内容、反省・改善策
<b>I. 学生中心の視点に立ち、学んでよかったと思えるような大学を目指す</b>  ・教育内容の充実 ・教育体制の充実  ・きめ細かい相談体制の確立  ・就職指導体制の充実  ・魅力ある施設、くつろげる空間の創造	①導入教育(初年次教育)・基礎教育・教養教育の充実 ・ <b>入学生の満足度の向上(85%)</b>	入学時のアンケート		入学時のアンケートを実施 アンケートの結果を分析、効果的な措置を実施 ・ <b>入学生の満足度80%</b>		入学生の評価を導入 ・ <b>入学生の満足度85%</b>		教務課
	②実践や資格に役立つ専門教育の充実 ・ <b>専門科目への満足度の向上(55%)</b>	専門科目(キャリア専門教育)		基礎的専門科目とキャリア形成に直接つながる専門科目との明確化 ・ <b>満足度50%</b>		キャリア形成のための専門科目の充実 ・ <b>満足度55%</b>		教務課
	③中途退学・留年者の減少 ・ <b>修業年限卒業率の向上(90%)</b>	中途退学・留年の原因の分析		成績不良者・多欠席者への指導体制の確立 ・ <b>修業年限率89%</b>		成績不良者・多欠席者への指導体制の充実 ・ <b>修業年限率90%</b>		教務課
	④成績評価の厳正な実施と教育の質保証 ・ <b>入学生3つのポリシーの認知度(50%)</b>	教育の質保証のための方策の総合的対策 改革支援タイプIの採択		教員間の成績評価の相互検証 カリキュラムポリシーの重点的学習 改革支援タイプIの採択 ・ <b>入学生の認知度 30%</b>		卒業時の成績評価と就職状況の相関度検証 ディプロマポリシーの重点的学習 改革支援タイプIの採択 ・ <b>入学生の認知度 50%</b>		教務課
	⑤横断的な相談組織の構築 ・ <b>相談学生の問題解決感の向上</b>	学生支援コーディネーターの設置		コーディネーターを中心に学科との連携を充実 保健室以外に相談室を設置 ・ <b>問題解決への有効度向上(定性的)</b>		コーディネーターを中心に学科との連携を充実 ・ <b>問題解決への有効度向上(定性的)</b>		学生支援課
	⑥就職率向上の戦略的指導 ・ <b>就職率の向上(100%)</b>	KKリバースの活用 滋賀夢翔会との連携強化		県内経済団体との連携強化 公務員就職対策の充実 ・ <b>希望者就職率100% 一次的就労の削減</b>		就職後の離職者の実態調査 ・ <b>希望者就職率100% 一次的就労の削減</b>		学生支援課
	⑦施設設備における学生のアメニティの向上 ・ <b>施設に対する学生の満足度向上(70%)</b>	学生の施設に対する希望調査を実施 スクールバスの導入試行		学生が自由にくつろげる空間を複数設定 ・ <b>施設への満足度 学生の50%</b>		学生が自由にくつろげる空間を複数設定 ・ <b>施設への満足度 学生の70%</b>		総務課・学生支援課
<b>II. 滋賀県における短期高等教育機関としてのブランド化をはかるとともに、地域社会の課題解決に貢献し、地域から頼りにされる大学を目指す</b>  ・入学定員の充足  ・県下の高校生の選択肢の中での順位をあげる  ・多様な入試により優秀な学生を確保する  ・地域社会との連携推進 ・大学の広報体制の充実	①入学定員を充足するとともに、質の高い学生を確保する。 ・ <b>高い定員充足率を維持(90%)</b>	学科コースの構成と適正定員を検討		社会人・留学生など多様な入学者を確保 学科コースの構成と適正定員を検討 ・ <b>入学定員の90%以上確保</b>		社会人・留学生など多様な入学者を確保 学科コースの構成と適正定員を検討 ・ <b>入学定員の90%以上確保</b>		入試広報課
	②県下の高校生にとって魅力のある大学としてのブランド化 ・ <b>受験生の増加</b>	オープンキャンパスの充実強化 高校ガイダンスの質的充実		オープンキャンパス運営の改善 会場ガイダンスの質的充実 ・ <b>OC参加者の満足度向上</b>		オープンキャンパス運営の改善 会場ガイダンスの質的充実 ・ <b>OC参加者の満足度向上</b>		入試広報課
	③入試方法の再検討 ・ <b>入試方法別比率の適正化</b>	AO入試の内容の再検討 一般入試への出願を増加させる		AO入試における学力考査(受講レポート)を導入 指定校入試・スポーツ入試に小論文を導入 ・ <b>受験生の増加 昨年比10%増</b>		一定の学力を保証する受験方法への転換 ・ <b>質の高い受験生の増加</b>		入試広報課
	④地域との連携の充実 ・ <b>連携の成果の評価</b>	公開講座等の再検討と合理的開催 生涯学習社会への適切な対応		連携自治体の拡大(守山市との連携強化) 地域おこしの事業に積極的に関与 ・ <b>連携自治体の評価の向上</b>		地域間のネットワークの構築 ・ <b>地域での評価の測定</b>		入試広報課
	⑤大学としての広報活動を充実 広報担当部門の充実と強化 ・ <b>広報活動の効果を測定</b>	大学広報と入学広報を整理 広報担当部門の構築		広報に向けての情報収集システムの構築 学科・事務局の連携による広報の充実 ・ <b>県下の企業団体等に効果を聴取</b>		広報に向けての情報収集システムの運用 ・ <b>広報への外部評価の導入</b>		入試広報課
<b>III. 学長のリーダーシップのもとに、ガバナンスを確立し、存在感のある大学を目指す</b>  ・経営の効率化と企画調整機能の構築  ・経費削減の推進 ・外部資金の獲得  ・50周年記念事業の実施	①学長のリーダーシップが発揮できる組織的条件整備 ・ <b>運営組織の機能化・合理化</b>	学長をトップとした組織横断型の企画調整部門の設置		企画調整部門による課題の整理と問題提起 各種委員会の機能的運営 ・ <b>企画調整部門の活動の活性化</b>		提起された問題解決への方策を提示 各種委員会の機能的運営 ・ <b>企画調整の成果の建昭</b>		・学校経営企画の立案
	②中期目標計画による運営体制の明確化 ・ <b>中期計画の適正な執行</b>	各年度の計画の執行管理 目標計画による運営の認識強化		各年度の計画の執行管理 目標計画の問題点の検討 ・ <b>中期計画の中間地点における評価</b>		各年度の計画の執行管理 次期中期目標計画の策定準備 ・ <b>計画実現による成果の検証</b>		・中長期計画の戦略立案
	③外部資金の獲得 経費削減の推進 ・ <b>収入増と支出減の実績</b>	科研費・私学奨励金等への応募推進		科研費・私学奨励金等への応募推進 ・ <b>科研費等応募件数の5%増</b> ・ <b>予算全体で経費削減前年比3%減</b>		科研費・私学奨励金等への応募推進 ・ <b>科研費等応募件数の5%増</b> ・ <b>予算全体で経費削減前年比3%減</b>		・競争的補助金の獲得
	④50周年を契機とした社会への大学のアピール ・ <b>大学への注目度の向上</b>	50周年記念事業計画の策定		50周年記念事業の広報宣伝 ・ <b>50周年記念事業計画の発表</b>		50周年記念事業の実施による大学のアピールの実現 ・ <b>50周年記念事業の実施運営</b>		・2020年に向けて

※中長期経営計画「すみれ2030」の期間…2018年度～2030年度とし、第1弾・第2弾・第3弾に期間区分して進捗管理する。  
 ※学園全体の重点目標(KPI)に基づき、各部門の中期目標、ロードマップ、アクションプランを設定。中期目標項目(4つに拘らない)の増減は各部門にて考慮すること。